

看護の向上と仕事への意欲・満足度を高め、自ら学習に取り組み成長できる教育プログラムを採用しています。

脳疾患の理解と看護についての専門性を理解し、実際の看護に活かせるようになることを目的にさまざまな教育を実施しています。特に新人教育には力を入れており、フォローアップ研修に加え、疾患や治療について学ぶ講義も毎週行っています。

1年間の新人教育スケジュール



病院の概要を学ぶ
オリエンテーション

佐藤 留衣 2015年入職

一週間ごとに各部署をローテーション研修した上で、自分に合った部署に希望が出せます。私が希望したのは救急病棟。臨機応変に対応することが求められるため、もっと勉強しよう!という意欲が湧いてきます。短期間でも深く密に関わる看護を目指しています。

看護職員としての基本姿勢と態度の習得

- 集合オリエンテーション(病院の理念や組織の概要、社会人・医療人としての姿勢や態度、接遇マナー、医療安全など)
- 基礎知識の習得(看護記録・看護診断、基礎的看護技術の評価、感染防止、安全教育、物品管理、滅菌、メンタルヘルス、電子カルテ)

4月

ローテーション研修

- 看護業務の一日の流れ、基本技術の取得
- 先輩看護師による実地指導とカンファレンス
- 技術研修(4~10月:BSチェック、採血、静脈注射、インスリン注射、輸液ポンプ)

6月

病棟配属

- 基本的な看護技術の実践
- 講義、実技演習、グループワーク、e-ラーニングなど

7月

フォローアップⅠ研修

- 技術チェックとフォロー

9月

自己評価と行動目標の設定

- 看護課程の展開

10月

救急研修

- 救急時の看護、ME機器の取り扱い

12月

フォローアップⅡ研修

- チームメンバーとしての役割と実践

翌2月

1年間の自己評価と2年目の目標設定

- 先輩としての心構え
- 自己の看護観を深める

他職種と一緒に
リハビリに関する
研修も

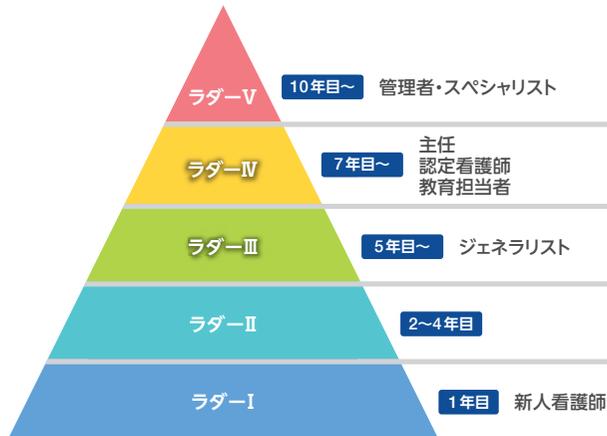


採血や注射の
トレーニング



入職後3年間で独り立ちできるように、 クリニカルラダーにより能力段階に応じた教育を実施。

個人の実践状況をレベルごとの到達目標と照らし合わせることで能力確認と明確な目標設定ができるクリニカルラダーシステムを採用しています。



ラダーI
1年目

自己の学習課題を見つけていく

基本的な知識・技術・態度(接遇)を身につけ、対象別看護を安全かつ的確に実施できるよう指導を受け、看護計画に沿った看護実践ができる看護師を目指す。

ラダーII
2~4年目

自己の学習課題に向けた学習活動を展開できる

事例に沿った看護過程を展開し、看護チームの一員としての役割が果たせるよう、根拠に基づいた看護ケアを実践することを目指す。

ラダーIII
5年目~

自己の学習活動に主体的に取り組み、指導的役割を發揮できる

自己の看護観を深め、後輩を支援することができる、また、EBPを理解し、文献を用いた事例検討を通して理論と技術の統合から問題解決ができることを目指す。

ラダーIV
7年目~

それぞれのキャリアプログラム、人生観から、プログラム選択をしていく

論理的かつ実践的知識を統合して卓越した看護を実践し、所属部署を超えてリーダーシップを發揮できる。自己の学習活動はもとより組織的な教育・研究活動を主体的に実践できる。

ラダーV
10年目~

組織的な教育・研究活動を主体的に実践できる人材育成を実践できる

自部署を客観的に分析・評価・改善する管理マネジメント能力を發揮できる。病院組織の目標を達成するために所属部署の目標を設定し、達成していく。

プリセプター制度とフォローアップ研修

新人看護師は、基本的な看護技術の根拠と技術について当院の標準業務手順書に基づきながら学んでいきます。病院での看護にスムーズに慣れることができるように、さまざまな技術研修や各部署でのプリセプター制度によるサポートも万全です。フォローアップ研修を定期的に行い、看護師としての自覚や役割を身につけ、成長できる環境を整えています。



配属先の教育専従ナース

各病棟には教育専従の看護師がいます。入職時のオリエンテーションや各研修を実施してくれる他、配属後にプリセプターとの業務が始まってからも病棟内でも目の届くサポートを心掛け、より良い教育環境を整えようと日々相談し知恵を出し合っています。新卒だけでなく中途入職者にも手厚く教えてくれる心強い味方です。



組織マネジメント力の向上にも注力

専門分野における教育・研修の充実はもちろん、ビジネスの視点から組織を機能的に動かしていくための人材育成も行っています。レベルに合った研修によって、チームワークの強化やリーダーシップの形成、ファシリテーション能力の向上を促します。例えば「キャリアデザイン研修」では、理想のリーダー像など個人の目標を明確にし、戦略的に自身のキャリアを考え、課題に取り組めるようにしています。



学びたいという意欲にあらゆる機会を提供。 専門性の追求はもちろん、人間的な成長も支援しています。

脳神経センター大田記念病院では、学会や研修会への積極的な参加を看護師たちに呼びかけています。
看護研究や認定看護師教育についてはシステム化・制度化を図り、ステップを踏んで挑戦できるようにサポートしています。

看護研究発表会・国内外の学会参加

海外で開かれる国際学会で研究発表も！看護師が積極的に学会・研究会に参加しています。

【海外】	【国内】
国際脳卒中学会 International Stroke Conference	日本臨床救急医学会総会・学術集会
世界脳卒中学会 World Stroke Conference	日本医療マネジメント学会
世界脳神経看護学会 WFNN Congress	日本脳神経看護研究学会
	福山医学際
	日本ヒューマンナーシング研究学会

国際脳卒中学会 (ISC)

井上 雅由・2010年入職

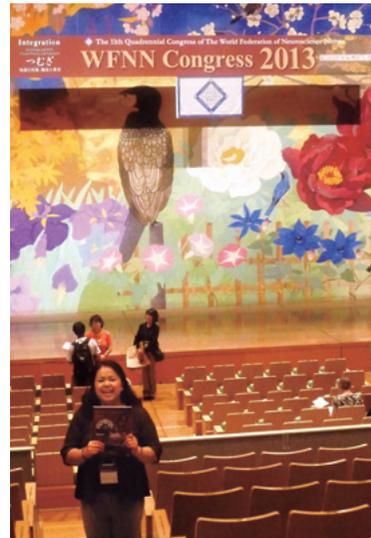
脳神経センター大田記念病院の研究所のサポートを受けながら、ISCで大きな反響を得た研究を引き継ぎ、発展的な研究を進めています。

脳卒中の治療で推奨される30度のベッドアップについて、先輩看護師たちが根拠となる臨床データを集めた研究論文がISCに認められたことから、2011年にロサンゼルスで発表。さらに症例数を増やして2013年にはハワイで発表。その後、先輩の研究を私が引き継ぐことになり、ISCから持ち帰った質問を発展させ、既往症や脳梗塞の部位や大きさによって血流の変化に特徴があるかどうか、起立性低血圧の原因となる自律神経の動きについてDATAを取り研究を進めています。同じテーマを研究する海外の看護師たちと意見交換して驚いたのは、私たちの研究では早期離床に向けて安全なゾーンを見つけるための研究ですが、海外では脳の血流維持の為なるべく起こさないほうがいいという考えで研究を進めていること。着目点が同じでも、考え方は正反対。海外の考え方を知ること、研究の面白さにつながっています。



**世界中の看護師たちと交流できるチャンス。
研究をさらに進めて次回も挑戦したい。**

ICUの現場で感じた「気管内挿管で口の中に潰瘍ができる人とできない人の差は何か」という疑問をテーマに研究し、症例数を集めて分析結果をまとめポスター発表を行いました。他国の看護師からは「なぜリスクが高まるのに長期間挿管するのか」と思ってもいない質問が。海外では3日たったら切開するそうで、日本との違いを強く感じました。私たちは地域単位で物事を考えがちですが、ここでは考え方が国や世界単位です。スケール感の違いに圧倒されましたが、他国の看護師たちの考え方や取り組みは勉強になることばかり。次回は4年後、クアアチアで開かれるので、症例数を増やしてぜひまた参加したいです。



海外の医療機関等との国際交流

**海外の医療機関との国際交流も活発です。
今までにない刺激を受けると看護師たちに大好評。**

病院見学だけでなく、看護師同士がコミュニケーションできる場を積極的に設けています。海外の看護師は非常によく働き、その熱意・勤勉さには私たちが驚かされるほど。日本の恵まれた環境を再認識でき、同じ看護師として刺激を受けることが新たな成長へとつながっています。また、2013年12月にはフィリピン・タクロバン市において、台風30号の被害者支援にも参加しました。



ミョンジ (鳴旨) 聖マリア病院 (韓国) との交流



Kaiser Antioch Medical Center (アメリカ) との交流



台風で大きな被害を受けたフィリピンへ看護師を派遣【写真提供: AMDA】

認定看護師の資格取得支援

**脳卒中リハビリテーション看護の分野はもちろん、糖尿病看護、
摂食・嚥下障害看護、皮膚・排泄ケア、緩和ケアの分野で認定看護師が活躍**



スペシャリストの育成を目的とした院内認定看護師取得支援制度があります。看護師として高いレベルと指導力を有するスタッフの中から毎年希望者を募り支援しています。受験費用・交通費・入学金・授業料はすべて病院が負担。毎月基本給も支給されます。その他にも、救急医療に携わる看護師には、ICLSやJPTECのインストラクターの資格取得に向けた研修会への参加支援も行っています。

大学院への進学支援

**奨学金制度を受けて働きながら大学院に進学。
周囲も気持ちよく応援・協力してくれるので安心です。**



長谷川 理香/福山平成大学大学院看護研究科に進学・修士を取得

自分の看護をより深く追求するために大学院での勉強を希望する看護師の支援にも力を入れています。大田記念病院奨学金制度から奨学金を支給するほか、勤務時間内の通学も可能です。看護学以外の経済学や経営学の分野に進学して病院運営・部署運営に活かしたいという目標も歓迎しています。